

## 一斉開花栽培に対応した小ギク収穫機

小ギク生産における収穫作業は、圃場を見回って出荷適期の花を判断しながら1本ずつ採花する選択収穫方式であるため、多大な労力を要し、全労働時間（600人・時/10a）の25%に達しています。近年、規模拡大の制限要因となっている収穫作業の省力化を目的として、開花のばらつきを少なくする一斉開花栽培技術や品種が開発されつつあります。そのような状況の中、収穫作業の省力化を図るため、一斉開花栽培に対応した小ギクの機械収穫技術が開発されましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 本機は畝を跨いで走行し、一定高さで切断する刈り取り部、切り花を保持し後方へ送る搬送部、切り花を収穫布に集める収容部およびフラワーネット（以下、ネット）の回収装置で構成され、小ギクを約 15~20cm/s の作業速度で刈り取ることができます。
2. 収容部には慣行の収穫布を 20 枚程度（50m 分）搭載できます。約 200 本刈り取るとに収穫機を停止し、切り花を結束します。束は収穫機から後続させた台車に直接積み替えるか、一旦畝の上に置き、まとめて回収します。
3. 本機を用いた収穫作業では、事前に切り花を支持する支柱やネットを除去する必要があります。ネット除去により倒伏するような軟弱なキクに対しては、先ず支柱のみを除去しておき、ネットを回収しながら刈り取りを行います。
4. 本機と搬出台車を組み合わせた収穫・搬出作業における 10a 当たりの作業能率は、慣行の選択収穫方式に対しては 65~55%削減、一斉収穫方式に対しては 51~38%削減できます。
5. 本機で刈り取ったキクは茎には損傷が認められず、葉の損傷は下葉（出荷時には取り除く）の部分で、茎の切り口の揃いは収穫後に行う水揚げ水深の範囲内です。



図 小ギク収穫機とこれを利用した収穫作業の様子

### ☆ 活用面での留意点

1. 本機は、実用化に向けて沖縄県、奈良県、香川県で現地実証をおこなっています。
2. 詳細は近畿中国四国農業研究センター・傾斜地園芸研究領域傾斜地野菜生産グループ（Tel: 0877-62-0800）へお問い合わせください。

（中央農業総合研究センター 作業技術研究領域長 小林 恭）